

全国信用保証協会連合会の概要

事業内容

全国信用保証協会連合会は、信用保証協会の健全な発達を図り、もって中小企業者等に対する金融の円滑化に資することを目的として、次の事業等を行っています。

- (1) 信用保証業務改善のための調査研究
- (2) 中小企業金融に関する調査研究
- (3) 信用保証協会に対する財務基盤強化のための貸付、出えん(損失補償)及び保証料補助
- (4) 責任共有制度に基づき金融機関が信用保証協会に対して支払う負担金の計算及び受け払い
- (5) 保証業務支援機関に関する業務
- (6) 信用保証協会、株式会社日本政策金融公庫及び金融機関その他の関係機関との連絡調整並びに信用保証協会に対する指導助言
- (7) 関係官庁その他に対する建議、答申
- (8) 金融、経済諸団体との連絡協調
- (9) その他本連合会の目的を達成するため必要な事業

設立

- 1951年(昭和26年)1月 全国信用保証協会協議会設立(連合会前身)
1955年(昭和30年)7月 社団法人全国信用保証協会連合会設立許可
2013年(平成25年)4月 社団法人から一般社団法人へ移行<英文名: Japan Federation of Credit Guarantee Corporations>

所在地

東京都千代田区神田司町二丁目1番地 TEL. 03-6823-1200(代表)
<https://www.zensinhoren.or.jp/>



自分の仕事が

この国の明日をつくる。



日々の仕事で、この国を支えている。

全企業の99.7%を中小企業が占める日本。その約4割が資金調達を円滑にすることを目的51の「信用保証協会*」であり、その信用保証協会を代表し、国との重要な連絡・調整業務を支えることで、多くの中小企業を支え、この国の経済を支えています。そう、

とした「信用保証制度」を活用しています。その際、公的な保証人となっているのが全国務を担っているのが、私たち「全国信用保証協会連合会」です。信用保証協会の円滑な日々の仕事で日本の明日を、未来をつくっていくことが私たちの使命なのです。



信用保証協会と信用保証制度とは？

信用保証協会は、信用保証協会法に基づき、中小企業者等の金融円滑化のために設立された公的機関です。中小企業者等が金融機関から事業資金を借り入れる際、信用保証協会が公的な保証人となることで、中小企業者等の資金調達をサポートします。

47都道府県と4市に計51の信用保証協会があり、各地域に密着した業務を行っています。

* 信用保証協会は、事業の維持・創造・発展に努める中小企業者等に対して、公的機関として、その将来性と経営手腕を適正に評価することにより、企業の信用を創造し、「信用保証」を通じて、金融の円滑化に努めるとともに、相談、診断、情報提供といった多様なニーズに的確に対応することにより、中小企業者等の経営基盤の強化に寄与し、もって中小企業者等の振興と地域経済の活力ある発展に貢献します。

全国信用保証協会連合会とは？

全国信用保証協会連合会は、全国51の信用保証協会を会員とする組織です。信用保証協会の健全な発達を図り、中小企業者等に対する金融の円滑化に寄与することを目的としています。日本で唯一の「保証業務支援機関」として、信用保証協会の活動を支援することにより、全国各地の中小企業者等のお役に立ち、地域経済の活性化に寄与するために、日々業務に取り組んでいます。

少数精鋭で担う、信用保証の未来。

全国信用保証協会連合会は、各地の信用保証協会をサポート
信用保証協会と国との間に立ち、日々さまざまな業務を行っています。

することにより中小企業者等の金融円滑化に寄与するため、
幅広い業務を少数精鋭で担い、信用保証制度の発展に貢献しています。

全国信用保証協会

連合会の主な業務

業務企画

国と調整を図り、協会の業務が円滑に進むようサポートしています。



各協会をサポートする「法務・業務」
法改正や新たな施策等で協会の実務に影響があるとき等に、問合せへの対応、説明会等の開催を通じて情報提供を行う等して業務をサポート。



国との調整を図る「企画」
政府予算確保に向け、主務省と折衝等を行います。連合会の事業計画・報告の作成、協会の経理処理等、協会の経営に関する対応も担当。



情報発信を担う「広報」
協会と連携した広報の企画、協会向けの広報誌や広く外部機関も対象とした機関誌やパンフレットの企画・発刊、連合会ホームページの管理・更新等を担当。



データ分析を担う「統計」
各種統計や決算関係資料の集計・作成、協会経営に係る調査分析、信用補完制度関係のデータ分析・分析レポートの作成を担当。

総務・事務管理

連合会の運営や日々の業務をサポートしています。



連合会のベースを支える「総務」
組織の基盤をつくり、連合会で働く職員を支えています。総会・理事会等の運営、各種規程の整備、人事労務、福利厚生等を担当。



お金の管理を担当する「経理」
お金の出納、伝票処理、資金管理を行います。口座の入金確認、各課の請求書の支払い、連合会の予算・決算の作成、各協会と連合会との費用精算等を担当。



人材や国際対応を行う「人材開発・国際」
協会職員を対象とした研修や通信教育の企画・運営を行います。国際会議・海外の信用保証機関からの視察対応、情報交換等も担当。



システム構築を担う「システム管理」
社内システム、統計システム、連合会・協会間の情報交換の効率化を図る情報提供システム等の各種システムの管理・運用等を担当。



経営者の家族や後継者の安心を図る「団体信用生命保険」
協会利用者に対するプラスワンサービスである保証協会団信の企画・運営・管理を担当。

保証業務電子化

協会業務の電子化に向け、企画・調整を行なっています。



電子化を推し進める「保証業務電子化」
全国の協会における、保証申込手続きの電子化を進めており、そのシステムの研究・開発・運営等を担当。

※1,2 2018年11月30日中小企業庁公表資料
※3 2022年3月末時点
※4 2022年11月末時点

全国の中小企業者数

358 万者^{※1}

暮らしを豊かにするモノやサービスの提供、地域を支えるインフラ整備、あるいは未来を先取りする先端技術の開発等、日本の中小企業者は、経済を根底から支える原動力です。

中小企業が占める割合

99.7 %^{※2}

中小企業の本数は日本の全企業数の99.7%を占めています。中には、世界に誇る先端技術の活用や、地域の伝統を受け継いできた多様な資源を活用する企業が数多く存在します。

保証利用企業者数

158 万者^{※3}

事業経営に必要な運転資金や設備資金に関わる融資を保証し、金融機関のプロパー融資との併用も可能。公的な保証制度として、中小企業者の4割を超える方々にご利用いただいています。

保証債務残高

40 兆円^{※4}

全国の中小企業者向けの貸出金残高はおよそ280兆円とされています。そのうち、全国の信用保証協会が保証している金額(保証債務残高)は、40兆円にのびます。

目の前の仕事、中小企業の

支援につながっている。

業務企画部 企画課
黒羽 若葉
Kuroha Wakaba
2017年入職
法経学部卒。総務部総務課を経て、現在は業務企画部企画課で企画・広報の業務に携わる。信用保証協会からの照会対応やアンケートの作成・集計、内外に向けた広報誌の発刊等、幅広く担当している。



業務企画部 法務課
柳澤 貴久
Yanagisawa Takahisa
2014年入職
法務研究科卒。業務企画部法務課に配属され、法令改正に関する調査・情報発信・業務フローの見直しや、信用保証協会から寄せられる制度利用等に関する照会対応に携わる。その他、契約書や規程内容のチェック等も担当する。

信用保証協会を支える、

そこに責任とやりがいを感じる。



大切にしているのは、意義を感じながら働くこと。

私は業務企画部企画課で企画・広報の業務を担当しています。企画関係の業務は信用保証協会の運営そのものに関することが多く、例えば協会がその年に何に取り組むかの計画を立てる際に策定の参考となるよう、協会を取り巻く状況や他の協会の参考となる取り組み等について情報提供をしています。広報関係の業務は、協会同士で取り組みを共有するための月報誌や外部に協会の取り組みを紹介するための冊子の制作の他、各協会が広報活動に活用できるツール類を作成しています。こうした業務にあたる上で大切にしているのは、自分の仕事はどういう結果を生むのかを考えながら取り組むことです。協会とのやりとりになるため、個々の中小企業を支援している感覚は得にくいかもしれませんが、その反面全国の中小企業に間接的に関わる仕事であり、自分の仕事は何につながるのかゴールを明確にイメージできていると、仕事を完遂したときに中小企業支

援につながったという実感を得られません。例えば、政府予算に関する業務では、国に予算要望活動をするための要望書をつくりますが、その際「要望書を読んだ人に響くように作成できれば、サポートできる中小企業が増えるかもしれない」と考えながら取り組むと、この仕事の意義を感じながら働くことができると思っています。連合会の仕事は周囲の人と相談しながら意見を出し合って進めていくことが多く、若手の発言も聞いてもらえる環境です。話し合いの中で自分が提案したことが結果に結びついたときはとても達成感がありますし、協会が中小企業支援を円滑に行うための支えとなるととても意義のある仕事なので大きなやりがいも感じられます。

1日のスケジュール

8:40	出勤
9:00	新聞記事の収集
9:30	企画担当で仕事状況を共有
10:00	協会宛通知文書の作成
12:00	お昼休憩
13:00	広報誌に関する打ち合わせ
14:00	経理処理に関する照会対応
16:00	連合会主催会議の資料作成
18:00	退勤



法律知識を活かし、日本経済の発展に貢献したい。

学生時代に法律を学んだ経験を活かして働きたいという思いで就職活動を行う中、中小企業に寄り添い支えることを目指す信用保証制度と、その維持・発展に努める連合会の仕事に大きな魅力を感じ、入職を決めました。法務課の主な業務には、法令改正対応があります。これは、法令改正によって全国の信用保証協会が行う業務にどのような影響があるのかを調査し、弁護士との協議を重ねながら必要に応じて業務フローの見直し等を行うものです。情報発信のために、信用保証協会の職員を対象とした説明会を実施することもあります。他にも、全国の信用保証協会から寄せられる照会への対応業務があります。照会の内容は、法令・契約関係や制度利用、保証、代位弁済、求償権の管理回収等、多岐にわたります。難しい仕事ですが、その分信用保証協会の担当者から感謝の言葉や私を指名したご相談をいただいた際は、やりがいを実感します。

連合会は全国にある信用保証協会をサポートする保証業務支援機関であり、信用保証協会を通じて中小企業の資金繰りを支援することを目的としています。そのため、中小企業と直接関わることは多くありませんが、国の施策に関わることができる点や、関係機関と連携して保証制度を創設・拡充することができる点が、連合会の特色だと思います。連合会は、若手職員にも活躍の場が与えられる社風です。自身の意見を発信する機会も多くあり、さまざまな経験を積みながら成長できる職場だと思います。まだまだ力不足を感じることも多いですが、周囲から信頼される職員になれるよう頑張ります。

1日のスケジュール

8:30	出勤
9:00	メールチェック、官報等による情報収集、資料作成
10:00	個別案件に関する照会対応
10:00	電話によるヒアリング、文庫・判例の調査
12:00	お昼休憩
13:00	個別案件に関する照会対応
13:00	課内での検討、質問者への回答
15:00	法令改正への実務対応に関する打ち合わせ
15:00	改正内容に関する課内での論点整理
17:30	退勤



ば自分から発信する熱意が試されるということでもあります。私自身そのことを忘れず、今後も成長できるように頑張っていきたいと思ひますし、そのような熱意のある方と一緒に働けたら嬉しいですね。

馬場 私もそう思ひます。連合会で働く人は皆、仕事に対する高いモチベーションを持っています。また、若手でも意見を聞いてもらえ、コミュニケーションを取りながら成長していける雰囲気があります。そうした環境の中で、主体的に考え行動していける方や、チームの役に立ちたい、社会に貢献したいという高い志を持った方と一緒に仕事をしたいですね。



たり一緒に考えてくれたりと、気にかけてもらっていることがよくわかりますし、今までに5つの部署を経験しましたがどこに行っても同じでした。

阪東 そうですね。私もこれまで、上司や先輩の方々が常に親身にサポートして下さったので、わからないことを一人で抱え込むこともありませんでした。他部署の方に対しても相談に行きやすい空気が流れていますよね。

馬場 普段から周囲と連携・協力しながら業務に取り組むため、チームワークが良いのは連合会の組織風土ですね。

片山 他にも、各地の信用保証協会から出向していただいている職員の皆さんがいるので、各地域の中小企業や保証協会の話を知ることができてとても勉強になります。

阪東 一方で、若手のうちからチャレンジでき、自ら積極的に発言・行動することで主体的に成長できる環境だと思います。それは、逆にいえ

互いに助け合いながら、のびのびと働くことができます。

片山 二人は入職前と実際に働くようになってからは連合会のイメージは変わりましたか？

阪東 入職する前は「全国信用保証協会連合会」という名称のイメージから堅い職場かと思っていたのですが、実際は明るくて和やかな雰囲気の職場でギャップがありました。

馬場 私が入職した当時、片山さんが総務課にいらっしゃって、わからないことをよく聞きに行った記憶があります。いつも笑顔で答えてくださり、新入職員時代、不安が一気になくなりました。

片山 二人が入職してきたときは今でもはっきり覚えています。そうした連合会の明るくやわらかい職場の雰囲気というのは、実は私が入職した当時から変わっていないんです。質問すると丁寧に教えてくれ

左 業務企画部 企画課

阪東 孝洋

Bando Takahiro 2018年入職

経営学部卒。信用保証協会にかかる統計の調査分析を担当。自由な議論のできる職場で、若手でも多くのことに挑戦できる環境に風通しの良さを感じている。

中央 電子化業務推進室

片山 淳未

Katayama Atsumi 2010年入職

法学部卒。保証申込手続き等の保証業務電子化にかかるシステムの運用や導入支援を担当。二人の新入職員時代を知る。

右 総務部 総務課 兼 経理課

馬場 天輝

Baba Tenki 2017年入職

商学部卒。連合会職員の給与、福利厚生等を担当。都内にいながら全国の信用保証協会の支援に携われる規模の大きさに惹かれて入職を決意。

総務部 総務課

佐藤 幸太郎

Sato Kotaro

2017年入職

商学部卒。業務企画部企画課に配属され、企画・広報業務を担当。現在は総務部総務課で、職員の労務管理や福利厚生、社会保険等の事務に携わり、連合会で働く人が気持ちよく業務を行えるようサポートしている。



連合会と信用保証協会、両方の総務を担うやりがい。

大学時代、震災ボランティアに参加した際に、地域復興の原動力になるのは中小企業だと実感し、将来は中小企業の発展に貢献したいと考え、信用保証協会への支援を通じて全国規模で中小企業を支えることができる連合会への入職を希望しました。配属となった業務企画部を経て、現在はそこで得た知識や経験をベースに総務部総務課の一員として、連合会で活躍する職員の働く基盤をつくり、支える仕事に日々取り組んでいます。

人、モノ、環境、ルールに関することすべてが業務範囲で、具体的には職員の労務管理、人事異動に伴う対応、職場の衛生・健康管理、役員会議の運営準備、連合会内の福利厚生制度の運営、採用活動等、仕事は多岐にわたります。また、連合会の総務は一般企業の総務と違い、約6,000人が働く全国の信用保証協会の総務機能も一部担っており、協会向けの福利厚生制度の企画・運営等も担当します。



日常の業務において中小企業を支えていると直接感じることは少ないかもしれませんが、例えば新型コロナウイルス感染症の拡大を機に創設された信用保証制度のように、国の新たな中小企業施策が実施され、全国の中小企業に信用保証制度が利用されていることがわかる時等、改めて連合会の存在意義を強く感じることができると思ひます。

総務の仕事というのは、連合会職員の日々の業務を支えるとても重要な仕事だと思います。だからこそ、さまざまな知識を深めていき、今以上にしっかりと、職員の一人ひとりをサポートできるような人を目指し、頑張っていきたいと思ひています。

1日のスケジュール

- 8:50 出勤、メールとスケジュールの確認
- 9:30 福利厚生制度に関する職員からの問合せ対応
- 11:00 採用活動に関する打合せ資料作成
- 12:00 お昼休憩 居酒屋ランチ
- 13:00 会議の運営対応、Web会議機材の撤去、会場の原状回復
- 15:30 社内研修の日程調整、メール対応
- 16:30 他社宛の郵送物の封入物チェック、郵便料金計算の金額チェック
- 17:00 勤怠管理システムの月締め作業
- 18:30 退勤

全国信用保証協会連合会を、

もっと知るための **10** のこと。

一人ひとりの成長を支援するさまざまな人材育成制度

職員一人ひとりがそれぞれの職場で個性やスキルを最大限発揮することが、中小企業者に対する金融の円滑化につながる。私たちはそうした認識のもとで、人材育成制度を実施し、成長への意欲を持って働き続けるための仕組みづくりと職場環境づくりを推進しています。

1 内定者向け通信教育

仕事の基本スキルであるビジネスマナーや仕事の進め方、生活習慣・学習習慣等の講座を受講し、社会人としての土台となる内容を学びます。入社後に実施する通信教育と連動した内容になっており、内定時から入社後まで一貫した教育制度を用意しています。

1年目

新入職員研修

ビジネスマナー等社会人の基礎となる研修に参加した後、配属部署にて通信教育を実施します。

2年目

初級職員研修

全国の信用保証協会の若手職員とともに集合研修を受講し、公的機関の職員としての業務に取り組む意識等を学びます。

3年目

基本法令研修

金融取引や信用保証制度等、業務において必要となる基礎知識を体系的に学びます。

4年目以降

職場リーダー養成研修 係長研修等

職場におけるリーダーシップ、フォローシップ等を学び、先輩社員としての意識・行動のレベルアップを図ります。

2 階層別研修

各階層別に必要とされる知識の習得や能力の向上を目的として、入社時の新入職員研修や係長研修、役員向けの講座等、さまざまな研修を用意しています。



3 資格取得支援

職員の自己啓発を支援するため、業務に必要な知識等に関わる資格取得や、主体的な能力開発に関わる費用の一部を補助しています。



4 通信講座受講奨励

業務に必要な知識を習得するため、パソコンスキルや法律知識等、各種通信教育講座を受講できます。必要な内容を自らが選択して学ぶことができます。



5 海外研修

信用保証制度は、海外でも同様の制度が存在しています。日本の信用保証制度の発展のため、海外の信用保証機関との意見交換や現地の中小企業者、金融機関への訪問等を実施します。



6 ジョブローテーション制度

入社後は、定期的に人事異動があります。さまざまな職種を経験することにより、幅広い知識の習得や俯瞰的な視点を養うことができ、連合会の将来を担う人材としての成長を促しています。また、年に一度、配属先等について希望を申告する機会があります。

豊かなライフスタイルをかなえる職場環境

人材育成制度を充実させることとともに、職員のワーク・ライフ・バランスを支援することで、多様なライフスタイルを支えたい。そう考える当連合会では福利厚生制度や休暇制度等、職員が安心感を持ちながら前向きに自分らしく働けるようなサポート体制を整えています。

7 福利厚生諸制度

老後の手厚い保障を目的とした厚生年金基金等の各種社会保険のほか、宿泊施設利用にかかる費用補助等、さまざまな福利厚生制度がございます。余暇活動として、親睦会や互助会旅行、クラブ活動等にさまざまな世代の職員が有志で参加しています。



社会保険 健康保険、厚生年金、厚生年金基金、労災保険、雇用保険

互助会 親睦会、互助会旅行、クラブ活動、保養費補助

諸制度 財形貯蓄、団体保険、健康カフェテリアほか

8 休暇制度

一人ひとりのライフスタイルやライフステージに合わせて、安心して働けるようにサポートしています。働き方や価値観への理解を深めることで、職員にとって最適なワーク・ライフ・バランスの実現を応援しています。

完全週休2日制(土日)

季節休暇(6日間)

子の看護休暇/介護休暇

産前産後休業

育児休業・介護休業ほか
【育児休業取得実績あり】

9 勤務環境

部署によって男女比は異なりますが、年齢・性別関係なく活躍できる職場です。また、風通しの良い現場のため休暇を取得しやすく、仕事とプライベートを両立できる環境です。

正規職員男女比
※2022年4月1日時点



有給休暇取得日数(平均)
※2021年度実績、別途季節休暇あり



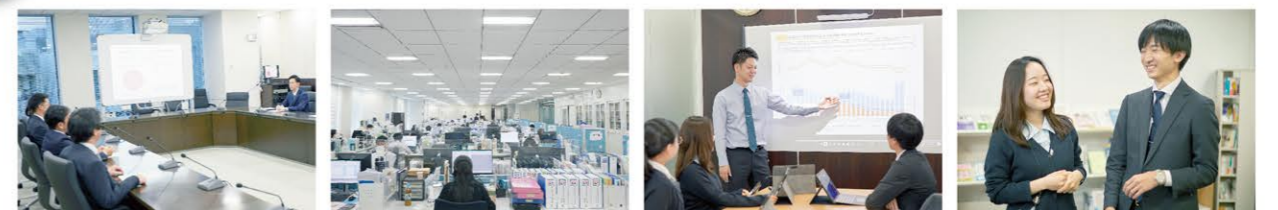
11.6日

時間外労働時間数(月平均)
※2021年度実績



約9時間

10 勤務風景



勤務地は神田のオフィス1カ所。職員同士の距離も近く、上司や先輩に相談しやすい職場です。チームでの打合せや協会との会議も頻繁に行います。普段は自席でPCに向かって仕事をしますが、周りへのこまめな報・連・相を大切にしています。